

1 題材名 「見て・感じて」～百マス鑑賞～

2 目標

- ・グループで鑑賞する活動に進んで取り組み、作品のよさや込められた思いについて感じ取ろうとする。
(美術への関心・意欲・態度)
- ・多様な視点から作品を捉え、そのよさや美しさなどを感じ取り、美術文化の特性やよさに気付くことができる。
(鑑賞の能力)

3 指導に当たって

本題材は、第1学年の鑑賞の目標である「自然の造形や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、美術文化に対する関心を高め、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てる。」ことに対応している。

個人による鑑賞からグループ鑑賞活動を通して、お互いの考えを伝え合い、作品の表現のよさや込められた思いを感じ取る感覚や見方の視点を捉え、美術文化の特性やよさに気付くことをねらいとしている。

本学級の生徒は、友人の作品を鑑賞することは小学校から経験しているが、独立した鑑賞の授業は今回が初めてである。鑑賞に関する意識調査の結果からは、実際に見えているものを視点として鑑賞している生徒が大多数であり、描かれているものの意味やその内面まで読み取ろうとしている生徒は少なかった。これらの結果から、鑑賞の対象としての作品の選定、視点を明確にして感じ取らせる手立て、効果的に言語活動を取り入れた指導により、更に深まりのある鑑賞活動ができると考えた。

そこで、ゲーム感覚を取り入れた「百マス表」を活用した鑑賞を行うことで、生徒の主体的な活動を促し、今後の鑑賞活動につなげる意欲を高めたいと考えた。また、グループのメンバーも、個人の生活の中の鑑賞経験による差を考慮した構成とし、鑑賞の経験の少ない生徒には、感じたことを話したり、友人の話を聞いたりしながら新たな鑑賞の視点を発見させ、鑑賞の力を育てていきたい。さらに、生徒同士のコミュニケーションを通して友人の見方や感じ方を尊重しようとする態度を養いたいと考える。

4 指導と評価の計画（1時間扱い）

時	本時の目標	評価の観点				評価規準	評価方法	言語活動の工夫
		関	発	技	鑑			
1	グループで鑑賞する活動に進んで取り組み、多様な視点から作品を捉え、そのよさや美しさなどを感じ取り、美術文化の特性やよさに気付くことができる。	○			○	グループで鑑賞する活動に進んで取り組み、作品のよさや込められた思いについて感じ取ろうとしている。 多様な視点から作品を捉え、そのよさや美しさなどを感じ取り、美術文化の特性やよさに気付いている。	観察、対話 鑑賞カード	見方の視点を提示することにより、作品を語る「言葉」を探したり、よさや美しさを感じ取ったりする。

5 本時の学習

(1) 準備・資料

教師：百マスボード、百マス表、アートカード、アドバイスカード

生徒：スケッチブック、鑑賞カード、筆記用具

(2) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点及び評価
1 全体で複製画を鑑賞する。 2 百マス鑑賞を行うことを知り、活動の説明を聞く。 (1) 鑑賞の方法・手順を知る。 ・個人で二つの作品の共通点を探す。 百マス鑑賞に挑戦し、「見ること」の達人になろう。	・複製画についての説明を加えながら鑑賞活動への興味・関心を高める。 ・本時の学習内容を確認し、見通しをもたせる。 ・百マス鑑賞の内容や手順、話合いの約束を確認することで、一人一人が課題をつかむことができるようにする。 ・鑑賞する作品を自分で選ぶことで、作品と活動への関心をもつことができるようにする。

(2) 鑑賞の視点について確認する。

- ・目に見えるもの
(形, 色彩, 構成など)
- ・感じ取る。
(感情, イメージ, 主題など)

3 百マス鑑賞をする。

(1) 3～4人のグループで協力し百マス表に書き込む。

- ・縦横二つの作品の共通点を探す。
- ・鑑賞カードにまとめる。



(2) 他のグループと比較をする。

- ・鑑賞カードにまとめる。

4 本時のまとめをする。

- ・グループからの発表
- ・本時の気づき等をまとめる。

・鑑賞の視点として「共通事項」を基にした具体的な言葉を提示し、支援する。

- 「対象」…何が描かれているか
- 「色」…特徴的な色使い
- 「形や線」…捉え方の特徴
- 「構図」…画面構成の工夫
- 「テーマ」…作者の意図

・絵画の中にはいろいろなモチーフが描き込まれていることに気付かせる。

・生徒と対話をしたり、鑑賞が深まっているグループを賞賛したりしながら、形や色彩、構図などの効果に気付かせる。

評 美術への関心・意欲・態度

- ・グループで鑑賞する活動に進んで取り組み、作品のよさや込められた思いについて感じ取ろうとしている。
(観察, 対話)

鑑賞の能力

- ・多様な視点から作品を捉え、そのよさや美しさなどを感じ取り、美術文化の特性やよさに気付いている。
(鑑賞カード)

・活動が滞っているグループには鑑賞の視点を確認し、目に見えることだけでなく、感じ取ったことを中心に話し合いを行うことができるよう助言する。

・鑑賞が深まっているグループや生徒には、より鑑賞が深まるような新たな視点を与える。

・発表内容が、作品のどの部分についての説明かを具体的に指摘しながら補足説明をしたり、「やわらかい感じ」、「やさしい感じ」など感性で捉えることの大切さを助言したりしながら、美術文化への理解を深める。

・鑑賞活動全体を通して、新たに気付いたことや学んだことを記入させ、今後の表現の活動に生かすことができるようにする。